

植物は私たちの知性を超える知性をもっている

NHK 出版から2015年11月に発行された「植物は<知性>をもっている20の感覚で思考する生命システム」を読んでいる。たまたま池袋の書店で見かけ、その時は立ち読みだったが、後日「これはきちんと読むべき本だ」と考え購入した。期待にたがわず読んでいてわくわくする内容だ。植物は人間よりずっと前に地球に出現し、地球が「全球凍結状態」になり、殆どの生物が滅びても植物は生き抜いてきた。動物の進化の系統と異なる進化の系統を植物はつくりあげている。

考えてみると植物なしでは私たちは生きられない。この本の中で特に私の関心を惹いたのは「根端はデータ処理

センター/植物は生きたインターネット」(P179～P190)だ。「根には無数の司令センターがあり、たえず前線を形成しながら進んでいく。根系全体が一種の集合的な脳であり、根は成長を続けながら、栄養摂取と生存に必要な情報を獲得する分散知能として、植物の個体を導いていく」(P201) 根端はやっぱり凄い！というのが率直な感想だ。一読をおススメしたい。

代表理事 阿部 義通



11月の活動報告

◆ 北千住ルミネの屋上菜園は野菜で溢れています ◆



屋上菜園全景と白菜



トンネルの中のモリンガと発芽した「もち麦」

◆ 川本町エゴマプロジェクト ◆

中島理事から秋田県でエゴマ栽培に取り組んでいる野菜ソムリエの方を紹介頂き、11月19日、上京された機会にお会いし、お話を伺った。東商事の若泉社長とマネージャーで野菜ソムリエの最上さんは地元の人々の健康のために、秋田県で2年前からエゴマ栽培に取り組んでいる。東商事さんはメッキ処理が本業だが、「ココペリ」という食にかかわる活動をしている。名刺の裏にはこう書かれている。「ネイティブアメリカンの精霊の1人で、五穀豊穡の神とされている「ココペリ」食材から生まれる様々なストーリーを伝える語り部役がわたしも「Cocopelli」の活動です。作り手の想い、買い手のニーズをはじめとする様々な声を伺い、発信してまいります」

JVECでは今年の春から川本町エゴマの郷の指導を受けながら、屋上菜園(ルミネ北千住、三井住友海上火災保険本館)で、また露地3ヶ所でエゴマの栽培に取り組み、栽培のマニュアルづくりを進めている。

エゴマは食材としてだけでなく、これからの時代のライフスタイルとして付加価値をつける時期になっている。そして地域起こしの食材としての可能性も持っている。

秋田県のお二人とも今後連携しながら、一步一步エゴマ文化の輪を全国に広げていきたいと思う。

(伊藤、阿部)

営業活動

◇プロロジス向け菜園と緑化提案◇

目的は物流施設で働く人たちの「雇用確保」。
11月1日に浅井、伊藤、阿部の3人でプレゼンを実施した。現在先方の検討結果待ち。鍵を握るのは菜園と緑化による施設内のコミュニティづくりのメニュー。そこから地域に広がるコミュニティづくりのデザイン。

◇大和リース(稲毛ショッピングセンター)の貸出菜園◇

現在打ち合わせ中。集客と「地域コミュニティの場づくり」としてショッピングセンターのこれからの在り方に関わるプロジェクト。JVECの三井住友海上火災保険本館の屋上菜園活動の発展系と位置付けられる。

どちらのプロジェクトも菜園→コミュニティの形成がどのような形で企業の本業にとって役に立つか、そのための説得力のあるブレークスルー提案ができるか、JVECにとって大きな試金石となる。

グリーンエッセイ

今年8月よりJVEC会員となりました、丸原と申します。よろしくお願ひします。

私が所属しているボランティア団体「四日野小ガーデンマスター」は、品川区が推進する屋上緑化計画に基づき、区立第四日野小学校の屋上にて2009年5月に発足。学校からボランティアを募ったところ、先生や保護者、地域の方含め10名程度でのスタートとなりました。屋上の菜園は、ざっと見て50m²ほどの広さです。私は発足して1年後の息子が入学した2010年度から所属しました。

それぞれに忙しい中で菜園の世話をしていく難しさを感じながらも細々ですが途絶えずに存続しているのは、育てる楽しさがあり、また癒しを植物から受け取っているからかもしれません。

学校が主体の活動ですが生徒が屋上へ上がることへの規制が色々あるため、子どもたちが植物に触れる機会は苗植えや収穫などのトピック的な行事に留まっているのが現状です。もっと都会の子どもに植物の成長過程が観察できる場を持てるよう先生方とも話し合っているところです。

少ない人数での活動になっていますが、今冬は「大根」「いちご」「そら豆」「玉葱」「ハーブ類」などが屋上ですくすくと育っています。そしてガーデンマスターの恒例行事の一つ「手前味噌作り」を来年1月に開催予定。今年は大豆を初めて収穫したので、四日野小産の味噌ができると今から仕込む日が楽しみです。



秋のさつまいも
収穫の様子

丸原 亜紀子

JVEC 第一期年次総会が行われました

- ◇開催日時：2016年11月19日(土) 午前11時～12時
- ◇開催場所：ハゴロモビル 5階会議室
- ◇出席者：阿部、伊藤、梶谷、櫻井、高瀬、中島、松本、森川 (以上8名)
※委任状…戸村、本橋 (以上2名)
計10名

1. 開会
2. 定足数の確認 (法人会員4社、個人会員13名 計17名)
過半数9名

出席者、委任状併せて10名で年次総会成立を宣言

3. 代表理事議案説明：
 - (1) 第一号議案 第一期活動報告並びに収支報告
 - (2) 第二号議案 第二期活動計画並びに予算案
 - (3) 第三号議案 役員の新任について
(中島 監事退任 理事・新任 戸村 監事・新任)
質疑応答の後、出席者の賛成を持って以上議案が承認された。

<第二期の取り組むべき課題>

- ① 会員の新規獲得 (第二期目標 法人5社、個人25名)
- ② コミュニティ菜園事業の受注 (2件+アルファの成約)
- ③ 菜園アドバイザーの計画的育成、確保
- ④ 屋上菜園ガーデンシステムの開発
(施設及び施設の活用ソフト開発)
- ⑤ 既存及び新規部会活動の充実
- ⑥ 事務局活動の円滑化 (経理、会員管理、総務、広報)

4. 当日配布資料

- ① JVEC 事業案内
(アーバンファーム運動で都市と人々を元気に!)
この事業案内は法人用及び個人用に配布する。
定期的に改訂していく。
- ② JVEC 2年目の事業案・組織デザイン
(法人、個人いずれもこの事業案に基づきJVECの活動にどのように関われるのか、提案して頂く。
目的はJVECの会員になったことにより法人、個人いずれにとってもプラスになるようにすることにある。
このため理事会が中心になってJVEC内でのネットワーク化を進める)

以上

12月の予定

□神田・日本橋ワイン祭実行委員会との打ち合わせ

いよいよ神田に「ワイン村」が誕生します。村の在り方、目指すことを実行委員会と一緒にまとめていきます。このプロジェクトについては、JVEC としてのかかわり方がはっきりする迄、JVEC 側としては当面阿部、伊藤が担当します。

□エコプロダクツ展

12月8日から東京ビッグサイトで開催されるエコプロダクツ展に JVEC 法人会員のミヨシフロンティアの「菜園生活セット」が山梨県山の山静商会(株)さんのブースで出品・展示される予定です。